

平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会（第1回）

議事概要

日 時：平成30年7月13日（金） 14：00～16：15

場 所：平城宮跡歴史公園平城宮いざない館 1階 多目的室

出席者：魚島 純一、内田 和伸、北口 照美、来村 多加史、立石 堅志、寺崎 保広、
中村 孝、名草 康之、増井 正哉

概 要：多くの利害関係者がおられることにより、委員の率直な発言に支障が生じる恐れがあるため、平城宮跡歴史公園歴史体験学習館の整備に関する検討委員会運営要領第4条に基づき、非公開で開催。

県より、別紙資料により検討状況を説明。

基本的なコンセプトを確認。歴史体験学習館の機能等について意見交換。委員からの主な発言は以下の通り。

○県より、別紙資料により検討状況を説明。

○主な意見の概要

〈コンセプト・施設の機能関係〉

- ・歴史体験学習館は体験（高精細映像の活用、ハンズオン等）に特化した施設とした方がよい。
- ・歴史体験学習館のコンセプトにおいて、「奈良県全体にかかる歴史・文化情報の発信」とあることから、平城宮、平城京に限らず、奈良県全体の歴史等を知る施設とした方がよい。
- ・立地場所から考えて平城京にこだわった施設とする方向性も検討が必要。朱雀門等の復原施設は物理的な空間であり、既存施設は出土遺物等の「物」を中心とした展示であるため、当時この場所でどのような行事等がされていたのかを理解するには不十分と言える。
- ・「奈良時代を今に感じる」というコンセプトに合う代表的なものとして正倉院がある。正倉院宝物は、正倉院展の限られた期間しか見ることができないため、正倉院宝物を見たいという要望は多いと考えられる。
- ・最近では映像技術が発展し、様々な場所で高精細な映像に触れることができるため、相当技術の高いものでなければ新鮮さはないと思われる。
- ・施設の機能等の検討においてターゲットの想定が必要。
- ・子供には何かを作る体験、若者にはコスプレ（天平衣装等）とSNSで発信できるような写真撮影、高齢者や歴史に関心の高い層には正倉院宝物のレプリカ等、それぞれのターゲットに応じた体験メニューの実施は可能。
- ・歴史体験学習館のコンセプトには、「交流の会場となる施設」ともあり、人が交流できるスペースを意識した施設配置の検討も必要。
- ・歴史体験学習館は大宮通りに面した立地であることから、外に開けた施設として人を取り込むような設計にする等、施設の在り方も検討が必要。